

社会性目標と実績(1)

	主な活動テーマ	Plan▶▶▶
		2014年度目標
CSR方針 と体制	CSR推進体制と浸透	<p>集合研修、e-ラーニングを継続し、CSR意識の向上を図る</p> <p>事業所ごとの目標と実績を活用し、PDCAサイクルを加速。取り組みレベルをさらに向上させる</p>
	コンプライアンス・マネジメント	<p>各支店のマネジメント状況を検証。各種ツールの運用で、従業員全員のコンプライアンス意識を一層向上させる</p> <p>事業所責任者の率先垂範により、労務管理を含めた職場環境マネジメントに注力</p> <p>内部統制システムの運用徹底、リスクマネジメントの強化に引き続き取り組む</p>
	社会とのコミュニケーション	<p>サステナブルな暮らしについて、多様なステークホルダーとさまざまなコミュニケーションを実施</p>
	お客様満足のため	<p>オーナー様とのコミュニケーションを強化、さらなるお客様満足の向上を目指す</p>
お客様 のために	安全・安心・健康・快適な 住まいづくり	<p>「いつもいまが快適」をテーマに、あらゆる世代を通じて、誰もが使いやすい心地よい「スマートユニバーサルデザイン」の住まいづくりを推進</p> <p>オリジナル制震システム「シーカス」を積極的に推進し、暮らしの快適性向上を目指す</p> <p>体験型学習施設を有効活用し、安全・安心・健康・快適な住まいづくりをサポートする</p> <p>賃貸住宅入居者様とのコミュニケーションを強化、さらなる満足の向上を目指す</p>
	コミュニティの形成と地域文化の継承	<p>「まちなみ参観日」「隣人祭り」の開催地を増やし、地域住民によるコミュニティづくり、地域文化継承をサポートする</p>

2014年度の主な社会貢献活動

●子どもの生きる力、感謝の心をはぐくむ「弁当の日」応援プロジェクトに参画

「弁当の日」の取り組みでは、献立づくりから、買い出し、調理、弁当詰めから片付けまで、親は一切手伝わず、すべて子どもたち自身が行います。弁当づくりを通じて、「食の大切さ」「作る楽しみ」「作ってもらう感謝の気持ち」を創出し、子どもの感性、成長をはぐくみます。元小学校校長の竹下和男氏が提唱した「弁当の日」の取り組みは、既に全国1700校以上の小中学校で実施されています。

この取り組みを企業が連携して応援し、普及啓発するプロジェクトが2012年から始まり、当社も応援企業として参画しています。取り組み成果が認められ、2014年8月、「第8回キッズデザイン賞」で消費者担当大臣賞(優秀賞)を受賞しました※。

2014年8月、グランフロント大阪で住ムフムラボ(第9回)住むコト講座『お弁当づくり』から学ぶ食育～食べ物の大切さ、つくる楽しみ、感謝の気持ちを育む『弁当の日』～を開催。当日は22人の小学生が弁当づくりにチャレンジするとともに、別会場では「弁当の日」の提唱者である竹下和男氏による講演会『「弁当の日」が生み出す『くらしの時間』』を同時開催。保護者をはじめ計90人が参加しました。

※「弁当の日」応援プロジェクトとして応募(事務局:株式会社共同通信社、参加:積水ハウス株式会社、キッコーマン株式会社、クリナップ株式会社、住友生命保険相互会社、全国農業協同組合連合会、東京ガス株式会社、ハウス食品グループ本社株式会社、はごろもフーズ株式会社)



講演会の様子



子どもたちによる弁当づくりの様子



つくった弁当を親子で試食

Do▶▶▶	Check▶▶▶	Action▶▶▶
2014年度の活動内容	参照ページ	2015年度目標
e-ラーニングを活用し、従業員一人ひとりのCSR活動の実践につなげた	P.53	○ 集合研修、e-ラーニングを継続し、CSR意識の向上を図る
CSRへの取り組みの各分野における目標と実績を検証し、改善活動を推進することにより事業所ごとのレベル差を改善できた	P.56	○ 事業所ごとの目標と実績を活用し、PDCAサイクルを加速。取り組みレベルをさらに向上させる
全従業員から「企業倫理要項」等を遵守する旨の誓約書を取得。 「ガバナンス意識調査」を実施し、マネジメントスタイル気付きのツールとして実践的に活用	P.55	○ 各支店のマネジメント状況を検証。各種ツールの運用により、従業員全員のコンプライアンス意識を一層向上させる
総務部長会などで事例を共有。 働きやすい職場づくりに努め、36協定遵守を図った	P.56	○ 事業所責任者の率先垂範による自由闊達な職場風土づくりに注力
新しい業務改善システムを適正に運用		○ 内部統制システムの運用徹底、リスクマネジメントを強化
「ゼロエミッションセンター」「住ムフムラボ」「防災未来工場(東北工場)」などでサステナブルな暮らしについて、多様なステークホルダーとさまざまなコミュニケーションを実施	P.18 P.69,70	○ サステナブルな暮らしについて、多様なステークホルダーとさまざまなコミュニケーションを実施
お客様アンケートで満足度95.4%。「Netオーナーズクラブ ぎずな」は月2回のコンテンツ更新で情報の鮮度を向上。オーナー様向け情報誌の定期発行とアンケートの実施、分析、改善	P.18	○ オーナー様とのコミュニケーションを強化、さらなるお客様満足の向上を目指す
「第8回キッズデザイン賞」で優秀賞 経済産業大臣賞1点、優秀賞 消費者担当大臣賞1点、奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞1点を含む6点が受賞	P.63 P.75	○ 「いつもいまが快適」をテーマに、あらゆる世代を通じて、誰もが使いやすい心地よい「スマートUD」の住まいづくりを推進
「シーカス」搭載率89%(前年度比2ポイント増)	P.38	○ 引き続き積極的に提案
来場者数「納得工房」2万7362人、「住まいの夢工場」8万303人	P.18 WEB	○ 体験型学習施設を有効活用し、安全・安心・健康・快適な住まいづくりをサポート
管理室数54万5757室、一括借上入居率96.4%。 入居者向け総合サービス「MASTクラブ」会員は約52万人	WEB	○ 賃貸住宅入居者様とのコミュニケーションを強化、さらなる満足の向上を目指す
年2回開催の「まちなみ参観日」を戸建住宅568会場、マンション17会場で実施。 「隣人祭り」を49会場で開催	WEB	○ 地域住民によるコミュニティづくり、地域文化継承をサポート

【自己評価の基準について】 ○目標を達成 ▲達成できなかったが目標に近付いた ✕目標に向けた改善ができなかった

●「住空間ecoデザインコンペティション」を支援

全国の建築・デザイン系の大学生・大学院生を対象に開催している産学共同コンペ「住空間ecoデザインコンペティション」に2005年度から参画しています。住空間における環境意識を高め、今後の住空間の在り方を探るとともに、産学の連携強化、学生間の交流促進、若きデザイナーの育成を目的とし、関西・関東の2会場で実施。2次審査を通過した優秀8作品(関西4作品、関東4作品)には2.4m³の空間に納まる原寸大モデルの制作権が与えられ、完成した原寸大モデルは11月開催の展示会(関西会場:本町ガーデンシティ、関東会場:新宿パークタワー)で公開されました。



〈関西・最優秀賞〉
「家具の中の家の部屋」
神戸大学大学院 橋本 阿季さん



〈関東・最優秀賞〉
「Microclimate Control~密生させた植物で
つくる贅沢なベッドルーム~」
東京都市大学 飯島 広太さん、澤口 花奈さん

●環境や住まいをテーマに、全国の学校で出張授業を実施

「エコ・ファースト企業」として環境大臣と取り交わした三つの約束「CO₂排出量削減」「生態系ネットワークの復活」「資源循環の取り組み」をテーマに、体験型学習プログラムを実施しています。また、2013年から子どもたちにとって身近な住まいのデザインについて学ぶ「ドクターユニバーサルデザイン授業」を実施。「どこがユニバーサルデザインなのか」を考えるきっかけをつくり、将来自分の意思でユニバーサルデザインを取り入れることのできる子どもを育てることを目指しています。



家の断熱性能について学ぶ「いえコロジー」セミナーの様子(累計200回以上実施)



社会性目標と実績(2)

	主な活動テーマ	Plan▶▶▶
		2014年度目標
従業員、取引先様のために	従業員とともに	「人材サステナビリティ」宣言に基づき、より一層「従業員が幸せを感じ、生き生きと仕事ができる企業集団」となるよう職務面談、評価制度の改定等の施策を実行
		女性が成果を出しながら、生き生きと働き続けることができる環境の整備と意識改革による女性活躍のさらなる推進
		社内諸制度の利用を促進し、多様な人材の活用を進める。障がい者雇用は喫緊の課題として取り組む
		労務管理コンプライアンスを徹底し、多様な働き方とワーク・ライフ・バランスを支援する
		各事業所の安全衛生委員会の積極活用等により労働安全衛生を一層推進する
	協力工事店・取引先の皆様とともに	取引先様との健全な関係を継続するため、グループ会社を含めて、「企業倫理要項」等のルールを徹底する
株主様、地域社会のために	株主・投資家の皆様とともに	中長期にわたる高い利益配分の実現と経営の健全性を維持するため、中期的な平均配当性向40%を確保。中間配当25円、期末配当25円の通期50円を予定
	住文化向上・教育支援	地域に開かれた企業として、自社の施設やノウハウを生かして、住文化の向上に注力する
		体験型学習施設などを利用した教育貢献活動をさらに充実させ、授業での講師派遣や職場体験の受け入れを拡大する
	地域社会への貢献	社会貢献活動の情報発信、共有と内容のさらなる充実により全体的な取り組みレベルの底上げを図る
		「積水ハウスマッチングプログラム」第9回はNPOなど27団体へ2130万円を助成予定。従業員の活動理解と参加を促進
		公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」を通じて、神戸市における国際的・文化的コミュニティづくりに資する活動を助成。33件の活動に1925万円を助成予定

2014年度の主な社会貢献活動

●「積水ハウスマッチングプログラム」 ～社会課題の解決を担うNPOなどの活動を支援～

従業員と会社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を2006年度に開始。NPOなどの社会課題解決を担う団体を支援しています。このプログラムは、従業員にとって身近なCSR活動の一環として、従業員（会員数3263人）が給与から希望する金額（1口100円）を積み立て、それに会社が同額を加えて寄付する仕組みです。「こども基金」「環境基金」の2基金は、会員代表で構成する



「こども基金」にて支援：ミャンマーの子どものために発電機付き大型深井戸を建設



理事会で支援先を決定します。また、東日本大震災による震災遺児を経済支援する「桃・柿育英会」（実行委員長：建築家 安藤忠雄氏）を寄付先とする「もも・かき育英会基金」を設置しています。

■「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



Do▶▶▶	Check▶▶▶	Action▶▶▶
2014年度の活動内容	参照ページ	評価
従業員のやりがい、納得度を高めるべく、評価制度を一部改定。企業理念に基づく活力あふれる組織風土がさらに強化されつつある		○ 「人材サステナビリティ」宣言に基づき、より一層「従業員が幸せを感じ、生き生きと仕事ができる企業集団」となるよう多面的に取り組む
2015年、東証・経産省「なでしこ銘柄」に住宅・建設業界初となる2度目の選定。女性営業・技術職で優秀な業績を挙げながら、結婚、出産、育児を経験した従業員が徐々に増加。女性管理職も増加し、グループで101人となった(女性管理職比率2.26%)		○ 女性が成果を出しながら、生き生きと働き続けることができる環境の整備と意識改革による女性活躍のさらなる推進
職群転換制度により16人が職群転換。退職者復職登録制度を活用し、これまでに17人が復職。障がい者雇用率は2.08%となり、法定雇用率を達成	P.45 P.48	○ 社内諸制度の利用を促進し、多様な人材の活用を進める
次世代育成へ積極的に取り組む企業として認定マーク「くるみん」を取得(4度目)。育児休業取得者は361人、短時間勤務制度の利用者は400人といずれも増加。また研修により、働き方の変革や業務改善による生産性の向上を促進。女性の育児休業取得後の復職率は93%		○ 労務管理コンプライアンスを徹底し、多様な働き方とワーク・ライフ・バランスを支援する
業務災害54件(前年度比7件増)、通勤災害23件(13件増)		× 各事業所の安全衛生委員会の積極活用等により労働安全衛生を一層推進する
内部統制チェック項目の一つに下請取引に関するチェック項目を設けており、公正な取引が実施されていることを確認。方針説明会を年2回開催	P.18 P.55,56	○ 取引先様との健全な関係を継続するため、「企業倫理要項」等のルールを徹底
配当性向は38.2%を確保。通期の1株当たり配当金は7円増配し、50円。株主様を対象とした「住まいの夢工場」見学会や投資家様対象のセミナー等を実施	P.17	○ 中長期にわたる高い利益配分の実現と経営の健全性を維持するため、中期的な平均配当性向40%、自己株式取得20%で総還元性向60%を確保。配当は通期54円を予定
「すまい塾」475人受講。「Webすまい塾」申込186件。産学連携と大学間交流を図る「住空間ecoデザインコンペティション」は全国45大学から177作品の応募		○ 地域に開かれた企業として、自社の施設やノウハウを生かして、住文化の向上に注力する
学生の見学者数:「納得工房」「住まいの夢工場」で計4609人。「新・里山」「希望の壁」で地域の子どもたちを対象に農作業体験を実施。「いえコロジ」セミナー、「Dr.フォレストからの手紙」「Dr.ユニバーサルデザイン授業」などの教育プログラムを継続実施		○ 体験型学習施設などを利用した教育貢献活動のさらなる充実
SELP製品をノベルティーとして2万4869個採用。障害者週間協賛行事を行政、経済団体、NPO、他企業と共催。和歌山県「企業の森」でのボランティア活動を継続実施。ボランティア休職制度をこれまでに7人が利用	P.63 P.66 WEB	○ 社会貢献活動の情報発信、共有と内容のさらなる充実
「こども基金」「環境基金」の第9回は27団体へ2130万円を助成。第10回は118プロジェクトが応募。東日本大震災遺児を経済支援する「もも・かき育英会基金」に1300万円を寄付(4回目)。会員数は189人増加し、3263人となった		○ 「こども基金」「環境基金」の第10回助成として、25団体に2278万円を助成。従業員の活動理解と参加を促進
33件の活動に1925万円を助成。これまでの助成金額累計は4億429万円		○ 2015年度は、34件の活動に1959万円を助成予定

【自己評価の基準について】 ○目標を達成 ▲達成できなかったが目標に近付いた ×目標に向けた改善ができなかった

●NPOと連携し、障がい者の自立を支援

2000年からNPO法人トウギャザー(奈良市)と協働し、全国で展開する現場見学会「住まいの参観日」や、展示場への来場者にお渡しするノベルティーとしてSELP(セルプ)製品※を採用しています。

また、2005年から毎年、本社のある梅田スカイビルで開催されている「障害者週間協賛行事」(後援:内閣府など)に参画し、運営に協力しています。「障害者と社会をつなぐシンポジウム」では、多様なセクターからパネリストを招き、行政・企業・NPO・市民が共に考え、話し合う有意義な場となっています。

※SELP製品:障がい者が社会福祉施設で職業訓練や社会参加の実現を目的に働き、つくった製品



SELP製品の一部(鍋敷き)



障害者週間協賛行事の様子

●新梅田シティ「新・里山」「希望の壁」での教育貢献

本社がある新梅田シティ(大阪市北区)の公開空地内に、「5本の樹」計画の考え方を反映してつくられた「新・里山」(約8000m²)では、2007年から毎年、近隣の幼稚園、小学校と連携して、体験学習を実施しています。2014年度は地元の小学生ら66人が米づくりを、また、幼稚園児61人がサツマイモ苗の植え付けとイモ掘りを体験しました。

「希望の壁」でも地元の方々、子どもたちに愛着を持ってもらうことを目的に、年間を通じてさまざまなイベントを実施。この「希望の壁」を世界最大のバタフライ・ウォールにしようという思いを込め、子どもたちの手によって、幼虫の食草となる柑橘系植物やキャベツ苗を「新・里山」に植え、蝶が蜜を吸えるよう花苗を「希望の壁」に植樹しています。2014年度は計5回、102組299人の親子が参加。回を追うごとにリピーターの数も増え、人気イベントの一つとなっています。



「新・里山」での小学生による田植え



「希望の壁」での自然観察会